

令和3年度 山梨県立韮崎高等学校(全日制)学校評価報告書(自己評価・学校関係者評価)

学校目標・経営方針	自ら学ぶ態度の育成 体力と気力の充実 全人的な人格の形成
本年度の重点目標	1 自ら学び自ら考える力を養う 2 確かな学力の定着と個性の伸長を図る 3 健康の増進を図り、豊かな人間性や社会性を培う
達成度	A ほぼ達成できた。(8割以上) B 概ね達成できた。(6割以上) C 不十分である。(4割以上) D 達成できなかった。(4割以下)

山梨県立韮崎高等学校校長 今村 勇二

評価	4 良くできている。 3 おおむねできている。 2 あまりできていない。 1 できていない。
----	---------------------------------------------------------

令和3年度 山梨県立韮崎高等学校(全日制)学校評価報告書(自己評価・学校関係者評価)		自 己 評 価					
番号	評価項目	令和3年度 重点目標					
		具体的方策	方策の評価指標				
			令和3年度末評価				
			達成度				
			結果				
			成果と次年度への課題・改善策(2月15日現在)				
			評価				
			意見・要望等				
			実施日(令和4年3月15日)				
			評価				
			意見・要望等				
1	<p>○ 学校生活のあらゆる場面で、自ら考え、判断し、行動する態度を育成する。 【教務】</p> <p>○ 言語活動、探究活動の実践を通し、主体的に物事を探究する力を身に付けさせる。 【SSHサイエンス振興・企画研究】</p> <p>【総務・教育振興】</p>	<p>・探究型授業の評価 ・生徒が各活動において、主体的な態度で活動しているかの自己評価を確認する</p> <p>・ポスタープレゼンテーションを実施することで「仮説の設定→仮説の検証→考察→結論」のプロセスが確実に表現できたか検証する。 【SSH・企画】</p> <p>・言語活動・協働作業・コミュニケーション力・表現力を総合的に育成する) 【SSH・企画】</p> <p>・読書活動を推進し、読書を通してもの見方や考え方を広げ、情報を適切に判断し活用する力を育成する。 【総務・教育振興】</p>	<p>・昨年引き続きコロナ感染状況の悪化に学校生活が大きく影響を受ける一年となった。9月及び1月～3月の分散登校期間には、昨年のYouTubeチャンネルによる録画動画の配信から一歩進んで、Teamsを用いたオンタイムでの授業展開へシフトし、ほとんどの教科で自宅にいる生徒とも繋がりがながらの授業を行った。</p> <p>・ICT機器を取り入れた授業や探究活動に増加についての評価については、生徒及び教職員にはある程度高い評価を得られたが、保護者からは少し厳しい評価となった。</p> <p>・1、2年生は全生徒がグループ課題研究に取り組み、パワーポイントと発表用の動画を作成し、クラス内での発表を実施した。また、ウェブでの開催となった本校の発表会にも動画ではあったが参加し、現時点での研究の成果を発表した。「探究のプロセス」を全生徒が経験することができた。</p> <p>・グループで探究活動を行ったことにより、協働して課題解決に取り組む経験も積むことができた。</p> <p>・SSHと「総探」の連携が深まった。</p> <p>・「朝の読書」の実施や「とよかん通信」の発行、「読書週間」でのイベント活動を通して図書館利用の啓発を行った。図書の出し出し数は昨年度より大幅に増え、また授業での図書館の活用回数も増加した。</p>	<p>・今年度格段に上がったTeamsを用いた授業展開などのICTスキルを、教員が引き続き維持していきけるように、また新1年生から導入される1人1台パソコンを用いた授業を多くの教員が展開できるように、今年度に続いて教員研修などの機会を設けていきたい。</p> <p>・ICT教育にはパソコン等の機器の用意や家庭でのWi-Fi環境など、家庭、保護者の協力が欠かせない。そのためには保護者に学校でのICTを利用した授業の有効性が伝わるように情報発信にも取り組んでいけると良い。</p>	<p>4</p>	<p>・今年度もコロナ対策の中、授業・部活動、また、学校行事も、今できることを一つ一つ行なうように思える。コロナの状況を理解した上で、生徒のことを考え、指導していただいている。</p> <p>・コロナ禍で制約が多い中、先生方が工夫し、生徒たちが課題を見つけ学習できるようになっていることに敬意を表す。</p> <p>・コロナへの対応で、教職員や生徒は苦労を強いられているが、ICT機器等の活用において成果が出ている。</p>	
1	<p>○ 個に応じた指導を充実させ、個々の進路希望を実現させる。 【進路】</p>	<p>・各種進路行事への参加者数 ・模擬試験および学びの基礎診断の結果分析 ・学校推薦型選抜、総合型選抜における合格者数</p>	<p>・コロナの影響で一部の模擬試験を中止または自宅受験の措置をとったが、課外講座を含め進路行事をほぼ計画通りに実施できた。模擬試験等における結果は、各学年とも過年度とほぼ同程度の成績状況だと分析している。特に3学年に対しては、夏期講習等の課外講座で地歴公民および理科の講座を充実させ、大学入学共通テストに対応できる実力を養成できた。</p> <p>・面接、小論文指導では、昨年度から学校推薦型選抜に加え総合型選抜の受験者にも全校体制で指導する枠組みを構築し、国立大学の学校推薦型選抜と総合型選抜の合格者数が35名となり、ここ10年間で最多となる成果を上げた。</p>	<p>・次年度から学習支援ツールClassiを廃止するため、Teams等のICTツールを有効活用し、生徒自身による主体的なPDCAサイクルを確立するための方策を研究する。</p> <p>・文部科学省の方針で、学校推薦型選抜と総合型選抜の定員が拡大し、また一般選抜においても多面的、総合的な評価が取り入れられている。全校体制での指導が国立大学の合格者増加につながったと分析しているため、次年度もすべての生徒の進路実現に向けて、個に応じたカスタムメイドの指導を全校体制で充実させる。</p>	<p>4</p>	<p>・探究の時間に関しては、外部の人達には目に見えにくく、伝わりにくいことが課題であるが、オンラインなどを通じ活動内容がよく分かった。</p> <p>・特に、SSHでの生徒の探究心・表現力・観察力など、粘り強さをもって取り組んでいるのに感心する。3年間で鍛えられた取り組みが、大学入試の結果にも繋がっているように思える。</p> <p>・興味を掻き立てるような工夫が詰まった図書館を見て、とても素晴らしいと感じた。これからも図書館利用に向けた啓発をお願いしたい。</p> <p>・生徒へのきめ細かい指導が浸透していることが伺える。中学生の進路希望の高さにも教育の成果が表れている。</p>	
2	<p>○ 授業改善を推進し、学習習慣の定着を図り、主体的に学ぶ態度を育成する。 【各学年】</p>	<p>【1学年】</p> <p>①特に学力の三要素のうちの思考力・判断力・表現力の育成を意識した指導や活動を各教科で工夫する。</p> <p>②文理選択など段階を踏った進路指導等を適時実施し、様々な情報に触れさせることで、自らの進路について深い考察を促す。</p> <p>③家庭学習の状況を記録させるとともに、定期試験を節目に中・長期的な見通しを持たせて学習に臨むよう日常的に支援する。(②③を面輪として捉える。)</p> <p>【2学年】</p> <p>①授業の目的やねらいを明確に伝え、課題量を調整して取り組ませる。また、Classiの学習記録を活用し生活習慣や学習状況を自主的に振り返らせ、質と量の充実を図る。</p> <p>②総合的な探究の時間、SSHでの活動、および、各種講演会を通じて、興味や適性を把握し進路目標を定める機会に結び付くよう授業を設計する。</p> <p>【3学年】</p> <p>①単元の目標と指導内容及び評価を明確にし、生徒と共有する。</p> <p>②生徒自身が学びを振り返る機会を設ける。</p> <p>③指導と評価の向上・改善に資するICTの利用を検討し、積極的に活用する。</p> <p>④自己の進路実現に必要な情報や課題を生徒が認識し学習に反映できるよう、日常のホームルームや個別面談を通して支援する。</p>	<p>・一人一台端末の導入に伴い、多くの教科でこれを活用したことによって、思考力・判断力・表現力の育成に寄与する授業を実施することができた。</p> <p>・学年を中心に教務係と進路係が連携し、文理選択に関する説明会、オープンキャンパス紹介や各種資料提供、進路講演会及び進路希望調査の実施等を行った。担任は個々の生徒の希望に応えられるよう日常的な個別面談から三者懇談に至るまで、丁寧できめ細かい指導を実施することができた。</p> <p>・スタディサポート学習状況リサーチの結果については、学年全体の傾向を分析し、全体で共有して改善すべき課題を生徒に提示するなどして有効に活用することができた。一方で、Classiによる家庭学習時間入力については、途中から生徒への入力を徹底できず、結果として有効な活用には至らなかった。</p> <p>・生徒と担任がClassiの学習記録をとおして、学習状況を振り返り、懇談の機会には定期試験や模試データとも結びつけながら学力向上の動機づけに繋げることができた。</p> <p>・コロナの影響で大学説明会や実習体験は参加できなかったが、オンラインによるオープンキャンパスや大学講義に参加する機会を得たことで、進路の選択に生かせる知識を蓄積することができた。また、ClassiやTeamsの活用により職員と生徒の資料共有を図ることで効率化することができた。</p>	<p>・端末の扱いやTeamsなどのアプリの活用に関しては、職員も生徒もこの一年でだいぶ活用になれたと同時に、活用機会が飛躍的に増えた。次年度はさらに発展させていきたい。具体的なことの一つとして、ClassiからMicrosoft Teamsの活用への移行に伴い、生徒の学習状況の把握も含めた幅広い活用方法を模索していく。</p>	<p>4</p>	<p>・夏期講習や宿泊学習は中止ということで残念だったが、模試など各自の取り組みは良好だったようだ。進路に関しては、1・2年生のうちから生徒に意識させていく必要があると思われる。</p> <p>・各種入試制度に応じて、個人個人の希望を活かすよう工夫した指導が良い成果を生み出している。</p> <p>・一般社会の様々な分野の専門家との関わりをもっと持って、進路などを具現化していただきたい。</p>	
2	<p>○ SSH・NIE・国際交流等への取組を通してグローバルな視野を養い、地域や世界で活躍できる人材育成に努める。 【SSHサイエンス振興・企画研究】</p> <p>【総務・教育振興】</p>	<p>・従来実施してきた小中連携・企業連携を通して「韮高から世界へ！スパーサイエンス・ハブ・スクールの構築」を目指す。【SSH・企画】</p> <p>・海外研修(オーストラリア)やフェアフィールド市との交流等を通して、異文化理解を深める。【総務・教育振興】</p>	<p>・各種SSH行事の遂行、探究活動の事後アンケートを通して生徒のキャリア意識が育成されたか検証する。【SSH・企画】</p> <p>・交流活動への参加 ・研修参加者へのアンケート【総務・教育振興】</p>	<p>・コロナ禍においてオンラインを活用して実施できた事業が数多くあり、県外の研究者との交流を通して、科学に対する正しい知識や研究者としての心構え、大学や研究施設での研究などに興味を抱いた。</p> <p>・鹿児島科学研修や関西科学研修、峡北地域科学研修をオンラインで実施し生徒のキャリア意識の向上が認められた。</p> <p>・SDGsを意識した「総探」のテーマ設定により社会的課題の認知が深まった。</p> <p>・姉妹校であるコロナ高校とオンライン交流を行い、合同授業を行い、また、韮崎市主催のフェアフィールド市とのオンライン交流にも生徒が参加し、さらに交流したいという意欲が高まった。</p>	<p>・今後とも感染症の影響は続くことを想定し、実施する手立てを工夫するという姿勢を引き続き継続し、生徒の学校生活の質の向上に向けた企画を立案する。</p> <p>・オンラインの活用など新しい実施方法を一層充実させる。</p> <p>・オンラインを活用した探究の方法を生徒とアイデアを出し合いながら追求する。</p> <p>・オーストラリアのコロナ高校とは時差が1時間(夏季は2時間)であるため、定期的な交流を行いたい。合同授業の回数を増やし、SSHでの合同研究につなげていきたい。</p>	<p>4</p>	<p>・企業・大学などと、今後もより良い協働活動ができることを希望します。</p> <p>・文理科の保護者だけでなく、普通科の保護者にもSSHの活動をより知ってもらうことも大切ではないでしょうか。</p> <p>・オンライン交流を継続して、コロナ禍が終息した時に交流再開がスムーズに進むように備えていただきたい。</p> <p>・オンライン発表会等で多数の受賞を経験するなど、活動・研修の方法が進化している。</p>

令和3年度 山梨県立韮崎高等学校(全日制)学校評価報告書(自己評価・学校関係者評価)

学校目標・経営方針	自ら学ぶ態度の育成 体力と気力の充実 全人的な人格の形成		
本年度の重点目標	1 自ら学び自ら考える力を養う 2 確かな学力の定着と個性の伸長を図る 3 健康の増進を図り、豊かな人間性や社会性を培う	達成度	A ほぼ達成できた。(8割以上) B 概ね達成できた。(6割以上) C 不十分である。(4割以上) D 達成できなかった。(4割以下)

山梨県立韮崎高等学校校長 今村 勇二

評価	4 良くできている。 3 おおむねできている。 2 あまりできていない。 1 できていない。
----	---------------------------------------------------------

令和3年度の重点目標		自己評価		令和3年度末評価		
番号	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	達成度	成果と次年度への課題・改善策(2月15日現在)	
3	○ 学習と部活動等との調和を図り、「文武両道」を推進する。 【各学年】	【1学年】 日常的な声かけや個別面談の実施、及び部顧問との密な情報交換を通して、個々の生徒の学習と部活動の両立状況等の把握に努め、必要に応じて適切な助言を与える。 【2学年】 ①HR・教科担当、部顧問との連携を図り、生活時間の配分に配慮する。 ②下級生を支援・指導し、上級生としてふさわしい言動や、責任感、役割意識が高められるよう促す。 ③各種講座や模擬試験、登校学習会への参加を促し、学力の伸長を図る。 【3学年】 ①担任と各顧問との情報交換を密に図り、担任が部活動への取り組みを、部顧問が学習面や進路実現に向けた取り組みを励ますような体制を築く。 ②担任及び学年職員は個別面談等の機会をこまめに設け、生徒個々の理解に努める。	【1学年】 個別面談及び職員間情報交換の頻度、Classiiによる部活動振り返りアンケート結果、QUアンケート結果 【2学年】 ・スタディーサポートの学習状況リサーチ結果 ・週末課題等の提出状況および試験等の結果 ・個別面談及び職員間情報交換 【3学年】 ・個別面談及び職員間情報交換の頻度、Classiiによる部活動振り返りアンケート結果、部活動加入状況(入学時からの推移)	・生徒からうかがえる日常の些細な変化に気を配り、こうした情報を日常レベルで学年職員間で情報を共有し、必要に応じて部顧問、保健室及びスクールカウンセラーと連携して対応することができた。QUアンケートも2回実施し、各担任は個々の生徒の結果を参考にしながら、日常の声かけや面談でのやり取りへの参考として活用した。 ・スタディーサポートの学習状況リサーチの結果より、部活動との両立が難しくなってきた生徒が伺える。担任と部顧問の連携を密にすることで生徒個々の実態の把握に努めた。 ・Q-Uの結果により集団に適応できなかったり孤立しがちな生徒を特定し適切な声掛けを行うことができた。 ・土曜講座や模擬試験の取り組み状況を詳細に分析し生徒に還元した。	A	・文武両道を共通目標に掲げて指導を行ってきた結果、定期試験では多くの生徒が意識的に取り組み良好な成績を収めることができた。一方で模擬試験の成績との乖離が見られるため、次年度は定期試験での取り組みを模擬試験等でも発揮できる実力に転換していけるよう、意識の向上と学習の工夫などを促していきたい。
	○ 学校行事等を通して校訓「百折不撓」の精神を培い、困難や挫折に直向きな心を育成する。 【生徒会】	・生徒自らの手で企画運営し、与えられた条件の中で、自分の職責を果たすことで、最大の成果を出すことに努める。 ・活動を通して仲間との交流を深め、相手を理解する心や、周囲の支えに感謝する心を育てる。	・自分の役割を把握し、自ら判断しながら、係や分担ごとに目標が達成できたかを検証する。 ・構築した人間関係をもとに、次の行事や取り組みを工夫し発展させる。	・与えられた環境や条件の中で、コロナ禍1年目のように、できないことの制限ばかりではなく、いかにして実現させていくかを考える、思考する態度を養った。 ・昨年に比べ、生徒からの要求や要望、生徒自身の意欲も高まっていることから、その意に応える準備と実践が必要であった。周囲の学校や他県の情報、また視聴覚機材やICT技術を有効に活用させながら、2年続けて不実施となることがないよう尽力した。 ・3年間の高校生活の中で、2年のプランがあることは停滞を意味するため、単年度計画ではなく、長期的な視点を持って、運営に携った。	A	・ここ数年の中で、できなかったことを復活させ、伝統や継続の維持を図る。 ・単に復帰させるだけでなく、工夫と進化を重ね、新たな形式を定着させる。 ・いかなる状況になっても、冷静に段階的に実施できる多方面にわたるマニュアルと経験を身に着ける。 ・あらゆる場面において、学びと成長を獲得し、人間性の育成と、仲間との協働、生徒と教員との信頼関係を構築する。 ・活動できることの意味と、感謝の気持ちを実感できる環境を整え、生徒自らが継続的に活動する意欲を持たせる。
	○ 自分や他者の多様な生き方、考え、存在を認め合う柔軟な心を育み、いじめを許さない集団・環境づくりに努める。 【生徒指導】	①学校生活を通して、自己の役割や責任の重要性を伝え、将来社会で活躍するための豊かな人間性や社会性を培う。 ②教員と生徒間のコミュニケーションを充実させることで信頼関係を確立し、いじめの未然防止、早期発見に努める。	・集団活動における目的意識や人間関係形成能力育成の取組 ・いじめ未然防止、早期対応の取組	評価点【生徒99.8 保護者96.4 職員100.0】 ・個々の役割を認識させ、自主的な活動を促す取り組みを行った。本年度は多くの学校行事が中止になったため、特にHRでの活動を重視した。 ・いじめアンケート(年3回)では全ての回で「いじめなし」であった。普段の生活状況からいじめの予防と早期発見に努めている。いじめに関わる情報が確認でき次第、係・学年・保健室が連携・協働し対応する体制をとっている。	A	・生徒の個性を踏まえようとして、集団の中で「何ができるようになるのか」を意識した取り組みが今後も必要である。そのために学年・教科等と連携していく。 ・全職員が学校教育目標を基準に、「統一した指導」で生徒を育てていく意識をもつことが重要である。また、普段から生徒・保護者・教職員間での情報共有のネットワークを構築し、問題が起きた場合は迅速に対応していく。 ・いじめや不登校では、初期対応が重要となる。まずは正確に状況を確認し、問題解決に向けて全校体制で対応する。また、必要に応じて外部の専門機関との連携も行う。
	○ 安全教育を徹底し、生徒の危機管理能力を高め、自他の生命を尊重できる態度の育成に努める。 【生徒指導】	①マナーアップ運動や交通講話などを活用して規範意識を高めて、交通事故・違反を減少させる。 ②防災避難訓練を通して、自ら危機回避、安全確保ができる行動力と判断力を養う。	・欠席・欠課数、交通事故・違反数 ・防災避難訓練の充実	評価点【生徒96.6 保護者89.5 職員92.8】 ・交通違反は一時停止違反が多かったが、注意力の欠如が要因として考えられる。交通関係の苦情はほとんどなく、定期的に交通安全の啓蒙活動を行った成果と考えられる。また自損事故が増加したため、校外での安全講習や定期的な注意喚起により意識の向上を図った。 ・避難訓練では身を守ることに加え、他者のために「自主的に行動」できることを意識させた。避難完了時間は例年との差はなかった。	A	・本年度は自転車・バイクの「自損事故」が増加した。原因は不注意によるものも多く、運転技術の向上、時間に余裕をもつなどを事故を避けるための意識を徹底することが重要である。今後「事故違反ゼロ」を目標に指導を行っていく。 ・大震災から時間が経過し、全体的に「防災意識が低下」している。訓練時だけでなく、平常時や非常時でも「自主的な行動」を促せる取り組みを実施していく。特に防災訓練については、本年度はコロナの影響で地域と連携して実施できなかったが、備えとして現実的な計画立案を行いながら安全教育を推進していく。
	○ 教職員の健康維持が、生徒指導の充実に繋がるといふコンセンサスのもと、教職員全員がワーク・ライフ・バランスの実現に積極的に取り組む。 【働き方改革に関する取り組み】	・時間外在校等時間の縮減 ・生徒と向き合う時間の確保 ・部活動における教員の負担軽減	・時間外在校等時間が月80時間を超える教職員の数を減らす。 ・「きずなの日」の実施回数を増やす。 ・平日1日と土日どちらか1日を休養日としている部活動顧問の割合を増やす。 ※評価指標は、昨年度との比較	・コロナ禍で、オンライン授業や分割授業、部活動の休止が続いたため、時間外在校時間が月80時間を超える教職員数は年間を通してほとんどなかった。 ・「自分の健康維持が生徒指導の充実に繋がるといふコンセンサスのもと、ワーク・ライフ・バランスの実現に取り組んだ」というアンケート項目につき、「4:そう思う、3:ほぼそう思う、2:あまり思わない、1:思わない」という4つのスケールで回答してもらったところ、4と3を合わせた割合は78%であった。	A	・今年度引き続き来年度も、「教職員の健康維持が、生徒指導の充実に繋がる」といふコンセンサスのもと、教職員全員がワーク・ライフ・バランスの実現に積極的に取り組むことができるよう、意識改革を推進し、相互扶助の関係を更に醸成していきたい。

学校関係者評価	
実施日(令和4年3月15日)	
評価	意見・要望等
4	・「文武両道」を推進する韮崎高校は素晴らしいが、遠方より通う生徒の学習時間や学習の質を確保する必要があり、サポートが必要と思われる。 ・コロナ対策で部活動が自粛される中、1・2年生はこの状況に慣れてしまい、通常の部活動に戻った時の心と体が心配である。 ・アンケート結果を見ると、部顧問と担任との連携がよく取れているように思われる。 ・「文武両道」を推進する韮崎高校は素晴らしいが、遠方より通う生徒の学習時間や学習の質を確保する必要があり、サポートが必要と思われる。 ・コロナ対策で部活動が自粛される中、1・2年生はこの状況に慣れてしまい、通常の部活動に戻った時の心と体が心配である。 ・アンケート結果を見ると、部顧問と担任との連携がよく取れているように思われる。
4	・顧問から情報を得る中で、SHRや廊下で担任からちょっとした声掛けがあれば、生徒としても嬉しいのではないかと。 ・コロナ禍で、文武両道を実践することが難しい状況ではあったが、先生方の指導が良い結果に結びついていると感じる。
4	・部活動との両立に関し、大会や県外での活動ができず、思うように自信をアピール出来ず、進路に悩んだ生徒もいると思うが、面談などでフォローしていただいた結果が出ていると思う。 ・これまでの進路決定状況から、先生方の努力が伺える。多方面から各個人に寄り添った指導をしてきた結果だと思う。 ・最高学年として、部活動でも素晴らしい実績を残している。先生方の指導・支援が適切に行われていたからだと感じる。
4	・学校行事が思い通りにできなかった歯痒さが伝わってくる。過去のノウハウを引き継ぐことが大変難しい中ではあるが、この経験が、新たに考え、行動する力になっていると感じる。伝統を守りつつ新しい風を入れるのも大変であるが、学園祭を実施していただき、感謝している。 ・全校生徒で活躍する場が少ない中、学園祭が実施できてよかった。いろいろな分野で力を持っている生徒もいるので、本来の力を発揮する場が持てなかったのは大変気の毒である。 ・学校行事がなくなることの苦悩が大きかったと思う。次年度こそ行事が復活することを切に願う。 ・大きな行事にとらわれず、日々の小さなことから、「百折不撓」の精神を培う場づくりを行ってほしい。
4	・「いじめ」は本校にはないと思われる。教員と生徒、あるいは生徒同士の信頼関係がしっかりと築かれている証である。 ・集団活動の中で、感じ方の違いから生じる誤解などが生じないように指導していただくと有難い。 ・多様な生き方・考え方を認める豊かな人間性が育っているのは何よりである。
4	・日頃の安全教育や日常的なマナー等へのきめ細やかな指導が定着している。 ・何より「自他の生命」を尊重する意識が向上しているのが良い。 ・安全教育は自分も他者も守るために大切である。今後も繰り返し指導していただきたい。
4	・部活動における先生方の勤務時間超過に関しては、今はコロナ対策として一時的に減っていると思われる。働き方についてはやはり見直していかなければいけないことだが、本校だけでなく、県の課題として考えることが必要ではないか。 ・先生方が健康でないと、生徒指導も難しい。管理職からの心配りをお願いしたい。目に見えないところで頑張っている先生方の評価も含めて。 ・コロナへの対応もある中で、難しいとは思いますが、ワーク・ライフ・バランスの実現に更に取り組んでいただきたい。 ・教職員の地まめ努力と百折不撓の精神で重荷の基盤・評価が確立されている。これからも健康に留意して頑張っていただきたい。